# 大分経済同友会

# TAKETA ART CULTURE 2014

# 視察報告書

平成 27 年 3 月

## 大分経済同友会

# 1. 視察の概要

大分経済同友会では、「平成 26 年度活動方針」において、「2015 年春に完成予定の大分美術館を核とした県都大分のまちづくりに向け、提言活動を行っていくこと」を重要課題の一つ目に挙げている。その中で、大分経済同友会地域委員会は、①創造都市の実現に向けて活動する、②県都大分のまちづくりについて調査・研究する、③大分県の観光振興について調査・研究する、の 3 点を活動目標にしている。

大分経済同友会地域委員会は、2014 年 9 月 27 日（土）、大分県竹田市を訪問し、同市城下町エリアで「文化・芸術」と「まち歩き」を楽しむアートプロジェクト「TAKETA ART CULTURE 2014」の視察を行った。

**【付表1】視察の概要**

（1）日時：2014 年 9 月 27 日（土）　10:00-22:00（現地 11:00-21:00）
（2）場所：大分県竹田市内
（3）参加者：11 名
【参考資料 1】視察参加者名簿　参照
（4）内容：竹田市城下町エリアで「文化・芸術」と「まち歩き」を楽しむ「TAKETA ART CULTURE 2014」を視察。竹田市在住の板井良助但馬屋老舗社長（大分経済同友会会員）に案内いただき、竹田総合学院（ＴＳＧ）の見学、首藤勝次竹田市長をはじめとした地元関係者との意見交換会も実施。
【参考資料 2】視察スケジュール　参照

岡藩城下の風情と昭和のノスタルジーな面影が混在する街並み

首藤勝次竹田市長と意見交換会を行った

板井良助但馬屋老舗社長にご案内をしていただいた

# 2. 竹田市の地域振興策

### (1)竹田市の概要

竹田市は、大分県の南西部に位置し、くじゅう連山、阿蘇外輪山、祖母山麓に囲まれた地にある城下町（人口 2.4 万人）。大分市内からは約 60Km の距離にあり、鉄道でも車でも約 1 時間で行くことができる。産業面では、大自然の恵みを活かした農業[1]に加え、自然や歴史・文化に触れ合える観光も盛んな地域である。

### (2)「竹田市新生ビジョン」

竹田市（首藤勝次市長）は、2011 年 6 月、「竹田市新生ビジョン」を策定した。策定の趣旨は、「目標がなければチャンスが見えない、ビジョンがなければ決断ができない」。「竹田市新生ビジョン」は、竹田市の「地域力」[2]、「人間力」、「経営力」、「行政力」を結集した近未来的な政策展開のために、その骨子を浮き彫りにしていくことを目的に取りまとめられた。具体的には、竹田市では、「ＴＯＰ運動」[3]を基軸に、農村回帰宣言、農村商社わかばの設立[4]、エコミュージアム構想の実践[5]、竹田総合学院（ＴＳＧ）構想など、竹田市ならではの政策が展開されている。

### (3)竹田市の移住支援策と実績

日本の「住みたい田舎」ベストランキング（月刊誌「いなか暮らしの本」2014 年 2 月号）で、竹田市は全国総合第３位となった。同誌によると、「市内にはこの 2 年間で染色家や木工芸家、紙すき職人らが多数移住。現地の移住相談窓口は土・日曜も対応しているほか、2013 年 11 月には東京赤坂に「竹田市東京オフィス」を開設。来年度（2015 年度）からは都内でも移住相談会やイベントを計画している」点が高く評価された。

竹田市は、2009 年、全国初の「農村回帰宣言市」を標榜し、2010 年には、市役所内に「農村回帰推進室」を設置するとともに、移住希望者の相談に対応するための「竹田市農村回帰支援センター」を設立するなど、移住支援策を次々に具体化していった。竹田市の移住支援策は、子育て世代向けの定住促進住宅の建設、就業場所の確保を図る合同企業面接相談会の開催、「地域おこし協力隊」[6]の任命など、ハード、ソフトの両面で手厚い内容になっている。この積極的な政策推進が効果を発揮し、2010～2013 年度の 4 年間で、アーティストや工芸作家、新規就農者を中心に、80 世帯、153 名が竹田市に移住した。

---

[1] 竹田市の特産品としては、米、カボス、椎茸、トマト、スイートコーン、サフラン、豊後牛などが挙げられる。
[2] 「地域力」:“竹田らしさ”への気づき、「人間力」: グローカルな人財育成、「経営力」: 世界に通用する価値の提供、「行政力」: 政策立案能力の強化
[3] TOP 運動 : T は竹田市の、そして挑戦（トライ）の頭文字、O はオリジナル、オンリーワン、P はプロジェクト、パワー。
[4] 竹田市の農業の担い手の確保・育成等を図り、消費者に安全・安心・健康な農産物・加工品を提供できる農業のブランド化及び「地産地消」に取り組み、地場素材を使った商品開発、食と農を主体としたアグリビジネスへの挑戦、農業者が元気で営農活動ができるシステム、流通の仕組みづくりを行うために設立された運営主体。
[5] 日本初の農業土木遺産に認定された白水ダムの周辺整備、図書館建設構想を中心に、東京大学景観研究室と連携して進める城下町再生プロジェクト。
[6] 都市住民が住民票を移し地域に住み込んで「地域協力活動」を行うことを支援する総務省の制度を活用。竹田市の「地域おこし協力隊」は、竹田市の魅力をブログ等で情報発信し、自らの体験をもとに移住希望者の相談に対応するなどの地域活動に従事する。この「地域おこし協力隊」にはアーティストや工芸作家も含まれる。

### （4）竹田総合学院（TSG）

竹田総合学院（ＴＳＧ）構想とは、竹田に埋もれた歴史・文化資源の再発見と、竹田に根付いた人材育成・起業・就労支援の 2 本柱で事業を展開し、新規雇用と農村回帰者の定住を図ろうとする構想をいう。2011 年には、大分合同新聞文化教室と連携して「歴史・文化資源再発見特別講座」、「人材育成・起業・就労支援講座」を開講し、実証実験のスタートを切った。城下町竹田を実証実験のフィールドとし、そこで学んだ者が市内の空き店舗、空き屋で工房や土産物店を起業し、それらがやがて竹田の雇用の受け皿となっていくことが期待される。具体的な成果の一つとして、2014 年 4 月には、廃校になった旧竹田中学校舎を活用し、工房の提供や作家の起業支援により、伝統産業の復興及び文化・芸術振興に取り組む施設「竹田総合学院（ＴＳＧ）」がオープンした。

今回の視察では、竹田市役所の方々にご案内いただき、竹田総合学院（ＴＳＧ）の施設内を見学した。竹田総合学院（ＴＳＧ）は、旧竹田中学校舎を活用した 2 階建ての建物で、アートホール、インキュベーション型工房、展示室、ワークショップルーム、カフェ＆交流スペース等で構成されている。工房内では若手の女性作家の実際の制作風景や竹藝家、中臣一氏[7]の作業スペースなどを見学し、展示室内の郷土作家の芸術作品、施設内各所に配置された絵画や彫刻などを鑑賞した。

竹田総合学院（ＴＳＧ）は、旧竹田中学校舎を活用した 2 階建ての建物で、アートホール、インキュベーション型工房、展示室、ワークショップルーム、カフェ＆交流スペース等で構成されている。

旧音楽室は竹藝家の中臣一氏の工房になっている。廊下から工房内や制作中の作品を見学することが出来る

工房を作家も作品を発表するギャラリーとしても利用している。

旧技術室は、竹工芸の岩田淳子氏の工房で活用されている。同じ竹工芸の工房でも作家によりスタイルが違う

---

[7] なかとみ・はじめ：竹田市を拠点に創作活動を行う竹藝家。同氏制作の竹工芸シャンデリアはオークションで 1,400 万円の値が付いたとのこと。

### (5)竹田市における地方創生の推進

竹田総合学院（ＴＳＧ）の視察の際には、竹田市より、具体例を交えながら、竹田の最近の動きや地方創生の推進について説明があった。

- 竹田では、竹工芸の中臣一氏、ＤＲＵＭ ＴＡＯ[8] 、KIRIN off white [9]の取り組みなど、良いモデルケースが次々に出てきている。また、竹田市観光ツーリズム協会では民間出身の若者が活躍するなど、若者達が全国から竹田に集まってきている。
- 竹田には、安藤雅信氏（岐阜県多治見市のギャルリももぐさ）、細川護光氏（熊本の陶芸家）、アレックス・カー（米国出身の東洋文化研究家）、白州信哉氏（白州次郎氏の孫）、茂木健一郎氏（脳科学者）といった芸術家や有識者とのネットワークがある。
- 竹田に集まる人々や技を通じて、竹田の情報が、アジア、ヨーロッパ、さらに世界各地に発信されている。
- 竹田で渦巻く地域内外の人間の磁場ともいうべきものを活かし、「企画のかけ算」が機能することで集積の相乗効果を高めていく。また、竹田市の「地域力」、「人間力」、「経営力」、「行政力」を高め、竹田発の地方創生の独自モデルを提案していく。

竹田市の移住支援策や竹田総合学院（ＴＳＧ）構想などの政策推進により、前述した通り、80 世帯、153 名（2010～2013 年度）が竹田市に移住した。移住者の中には、アーティストや工芸作家、アートに関心の高い人々が多い。そうした人々が地元と一緒になって始めたアートプロジェクトが「TAKETA ART CULTURE」である。

89 歳で小説を発表した新人作家でもある富永嘉子氏の和紙を使った作品

竹田総合学院には展示スペースも設けられている

学院では作品の展示販売も行われている

[8] コシノジュンコ氏とのタッグで久住町を拠点に活躍するドラム・アート。2014/9、「第 6 回観光庁長官表彰」を受賞。

[9] 竹田市内に実在する民家を「オフホワイトハウス」と名付け、そこでの生活や地域の人々との関わりを動画で記録し、その動画（50 種以上）に視聴者の共感を得つつインターネット販売限定の発泡酒：KIRIN off white のブランド価値を高めていく取り組み。民家のデザインでは竹田出身・在住の草刈淳氏が活躍。

# 3. TAKETA ART CULTURE 2014 について

## 2.「TAKETA ART CULTURE 2014」について

### (1)「TAKETA ART CULTURE 2014」の概要

「TAKETA ART CULTURE」は、「竹田だからできること」をコンセプトに、竹田市城下町エリアで「文化・芸術」と「まち歩き」を楽しむアートプロジェクトとして 2011 年にスタートし、今年（2014 年）で 4 回目の開催となる。

「TAKETA ART CULTURE 2014」公式 HP によると、このプロジェクトの目的は次の通り。

「竹田町商店街は、岡藩城下の風情と昭和のノスタルジーな面影が混在する、独特の雰囲気を漂わせる商店街です。しかしこの商店街も、少子高齢化や不景気といった時代の影響を受け、空き店舗が増加し、通りにはシャッターが目立つようになりました。地域が抱える現状に「文化の掘り起こし」や「アート」といった新しい視点を組み込みながら街や人、地域と向き合います。竹田の新しい文化や価値を創造していくことがこのプロジェクトの目的です。」

**【付表2】開催要旨**

① **開催日**：2014 年 9 月の土日祝日（9/22（月）含む）、全 11 日間開催。
② **開催場所**：竹田市城下町エリア、全 22 会場
③ **内容**：「アート・クラフト×竹田市城下町まち歩き」【付表３、４】参照
④ **2014 年のテーマ**：「くぐりくぐる」[10]
⑤ **主催・共催・協賛・後援・協力**

主　　催：竹田アートカルチャー2014 実行委員会
一部共催：大分県地域創造力活性化事業（アートスクール）
協　　賛：竹田市観光ツーリズム協会
後　　援：大分県、竹田市、竹田市教育委員会、大分合同新聞社、ＮＨＫ大分放送局、ＯＢＳ大分放送、ＴＯＳテレビ大分、ＯＡＢ大分朝日放送、エフエム大分
協　　力：竹田商工会議所、竹田町商店街振興組合

[10] 竹田市に来るまでにたくさんのトンネルをくぐること、また、竹田市城下町エリアに多数のトンネルがあることから、2014 年のテーマは、「くぐりくぐる」 となった。「TAKETA ART CULTURE 2014」公式 HP によると、テーマの趣旨は次の通り。「山々に囲まれた立地。その一見閉鎖的な空間とも思える町はかつて商人の町として栄え、現代においても交流の文化が息づいています。トンネルをくぐり通った文化は「城下町」という装置によって独自の文化として吸収されてきました。トンネルの内と外。日常でもなければ非日常でもなく・・・この町自体が、ある地点へと抜けるための「トンネル」。それは「はざま」「曖昧さ」といったニュートラルな感覚を呼び覚まします。少しの灯りの中、各々の生きてきた記憶や風景を頼りに、まだ見ぬ向こう側に、思いをめぐらす。創造と妄想をくぐり抜けることは、それぞれの物語を生み出すことでもあり、〝境界〟を往来する糧にもなるでしょう。」

【付表3】アート・クラフト×竹田市城下町まち歩きMAP

[出典]「TAKETA ART CULTURE」公式ウェブサイト

【付表4】作品展示アーティスト一覧

| |
|---|
| 安部泰輔(Map10)、Overture(08)、猿山修(14)、岩田淳子(21)、オレクトロニカ(07)、尾込真貴子(20)、甲斐哲哉(02)、草刈淳(09)、桐山浩実(06)、ザ・キャビンカンパニー(15)、新本聡(02)、高木逸夫(18)、高木康子(18)、谷口倫都(21)、辻岡快(13)、中臣一(21)、中村秀利(05)、長谷川絢(21)、山本哲也×飯川友紀子(01)、ヨシダキミコ(19)<br>※敬称略、(　) 内は各アーティスト作品を展示する会場 MAP-No. |

### (2)「TAKETA ART CULTURE 2014」の魅力

「TAKETA ART CULTURE 2014」は、竹田市城下町エリアの全 22 会場（竹田薪能会場を含む）で開催された。各会場を一つ一つ巡ることで、「アート・クラフト」と竹田市城下町の「まち歩き」の二つを同時に楽しめる仕組みになっている。各会場では、古い空き家や空き店舗などが、工房、ワークショップ会場、参加アーティストの作品展示スペース、集会場、観光案内所等として活用されている。開催期間中、20 組のアーティストによる作品展示のほか、全 7 種のワークショップ、ライブ、アーティストトーク、期間限定の食の企画など、竹田の地域資源に焦点を当てて、「芸術と竹田文化」に関するプログラムが展開された。

「TAKETA ART CULTURE 2014」の魅力について、「アート・クラフト」、「食」、「まち歩き」に分けてご紹介したい。

#### ① 「アート・クラフト」の魅力

「TAKETA ART CULTURE 2014」では、市内 16 会場に参加アーティスト 20 組のアート・クラフト作品が展示された。

まず、作品が展示されている各会場の建物が興味深い。古い空き家や空き店舗などが会場として活用されているが、実際に傾いている古い空き家（会場名「傾く家」）もあれば、空き店舗をアーティストが空間プロデュースした建物もある。一つ一つの建物自体が個性的・魅力的である一方、どの建物にも共通して城下町の風情が漂うところが竹田の奥深い魅力といえる。

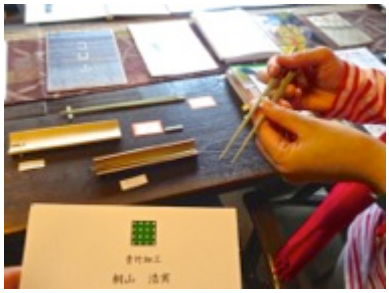
参加アーティスト 20 組の「アート・クラフト」はそれぞれ質が高く、展示作品も充実している。竹工芸、陶磁器、染色、彫刻、書といった伝統的な作品から、イラストレーション、絵本、紙もの、手織り、家具・照明、ぬいぐるみといった作品まで多種多様。世界的に評価の高い竹藝家の中臣一氏をはじめ、各分野で話題のアーティストが参加しており、各会場を巡ることで、竹田に縁のある「アート・クラフト」の魅力を存分に堪能することができる。

また、本藍染め、ネックレス、ぬいぐるみ、カブトづくりなど全 7 種のワークショップも企画されている。開催日程に合わせて訪問すれば、作品鑑賞に加え、好みの「アート・クラフト」体験もできる仕組みになっている。さらに、開催期間中の日曜日には、アコースティックライブや竹田市在住のアーティストなどの座談会も企画されている。

会場名「傾く家」は、傾いている古い空き家をアーティストがギャラリーとしてリノベーションした
アートで「古い」「傾く」という「負の要素」を見事に、個性ある魅力的な「付加価値」に転じている

2014 年横浜トリエンナーレでも活躍した大分の芸術家、安部泰輔氏は、空き店舗をアトリエとして、ぬいぐるみ作品と市民の書いた絵をその場で、ぬいぐるみ作品を製作するワークショップを開催した

文化庁の登録有形文化財の蔵は、工芸品の販売をおこなう味わいのあるショップとして利用されている



箸や箸置きなど用途の美が素晴らしい

竹製品を見直した

誰でも体験できる竹工芸教室

大きなコンクリート台の上に小さな人物像がならぶ、オレクトロニカ氏の作品

ギャラリー坂の上、長谷川絢氏の作品

安部泰輔氏による田能村竹田の「春景山水図」を元に古着を素材としてパッチワークで作成したタペストリー作品

空き屋をアトリエとギャラリーとして活用している（高木逸夫、高木康子）

私（尾野）もグラディエーションが美しい湯呑み茶碗を購入して愛用している

辻岡快氏は、古い酒蔵をリノベーションして染色工房と店舗を兼用している
工房の外観は竹田の古い街並みに溶け込み魅力がある

### ②「食」の魅力

城下町竹田には、江戸時代から続く老舗の和菓子店がある。今回の視察では但馬屋老舗本店（Map11）を訪問した。店内にはミヤケマイさん[11]（視察当日、竹田市内に滞在中）の絵も飾られており、美味しい地元銘菓、さらに店内のアート作品も楽しむことができる。

「TAKETA ART CULTURE 2014」の期間限定の食の企画として、但馬屋老舗・茶房だんだんの「サフランクリームあんみつ」[12]、カフェ・グランパ（Map16）の「竹田口笛ホットドッグ」[13]、人気パン屋さん・かどぱん（Map17）の「廉太郎モーニングかどぱん風」[14]も用意されており、「アート・クラフト」の魅力に、城下町竹田の名店で地元の食材を味わうという食の魅力も加わる。

竹田市内の岡城では、2014 年の 5 月 31 日、6 月 1 日の 2 日間、「DINING OUT TAKETA」[15]が開催され大きな話題になった。この「DINING OUT TAKETA」でリオネル・ベカ[16]のアシスタントを務めた松竹祐介シェフが竹田市内でビストロ＆クッチーナ「シャンピ」を営業している。フランス・ストラスブール郊外で修行したシェフは、地元竹田の食材を活かしたジビエ料理を提供するなど、新しい食文化の開拓にも取り組んでいる。最近、竹田市中心部の路地裏に屋台が出現し、アートの関係者や若者達が立ち寄る。こういった店が出てくるのも、竹田のまちの魅力が高まっていることの一つの兆候といえよう。

古い民家をリノベーションしたカフェ・グランパ

アート作品も展示している

イタリア料理は、ダイニング・アウト竹田の影響が強く、檜の皿なども流用されている　一流の食文化イベントは、竹田の料理人に味以外にアートや文化を伝承した

竹田丸福は、からあげで有名な大分を代表するＢ級グルメ店。d design trabel Oita にも掲載されている

このレストランはオーナーシェフが大分市から通い、土日のみの営業

---

11 アート、デザイン、プロダクト、工芸などカテゴリーにとらわれることなく多彩な作品を発表し続ける美術家。現在、2015/4 開館予定の大分県立美術館プロジェクトでも活躍中。

12 竹田の特産品：サフランのアイスとあんみつ。

13 思わず口笛を吹きたくなるほどおいしい無添加口笛ソーセージを竹田の野菜で挟んだホットドッグ。

14 美味しく体に優しいイングリッシュブレックファースト。サフランを使ったバゲットも用意。

15 その土地に息づく文化や食材の魅力を「料理」にして提示する期間限定の野外レストランの取り組み。TV 番組（BS）等で全国に発信された。

16 Lionel Beccat:ミシュランの二つ星を獲得した東京銀座のレストラン「Esquisse（エスキス）」のエグゼクティブ・シェフ

リオネル・ベガのアシスタントを務めた松竹祐介シェフの店「シャンピ」

海外で料理修業した若い料理人が屋台で営業、金木犀の咲く夜の屋外での飲食はすばらしかった。若手アーティストとも交流できた。

### ③「まち歩き」の魅力

城下町竹田のまち歩きは楽しい。竹田市中心部には、岡城跡、武家屋敷、滝廉太郎記念館などの史跡や文化財、神社・仏閣や昔ながらの商店街がコンパクトに集まっている。訪れた人は、竹田の城下町をそぞろ歩きしながら、城下町の風情と昭和ノスタルジーな面影が混在する竹田ならではの魅力を堪能することができる。

今年で４回目を迎えた「TAKETA ART CULTURE」のコンセプトは「竹田だからできること」。城下町竹田のまち歩きの魅力があるからこそ、「文化・芸術」と「まち歩き」の２つを同時に楽しむアートプロジェクトが始まったといえる。

滝廉太郎の旧家

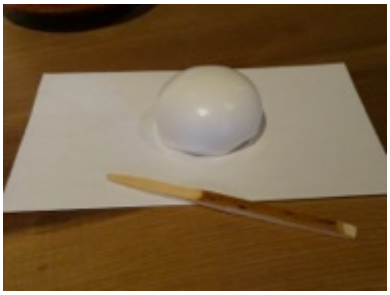
軍神、廣瀬武夫を祀る廣瀬神社

八幡山命水延命地蔵尊周辺

竹田のまちあるきは昭和のまちなみも魅力、レトロなショップにはカセットテープの歌謡曲などが売られている

酒店のオリジナル日本酒

但馬屋の古い店舗


但馬屋ロングライフ商品「荒城の月」

空き店舗にパン屋が開店

## 4. まとめ（私見を含む）

今回、「TAKETA ART CULTURE 2014」を視察するという貴重な機会を得た。地元の板井良助但馬屋老舗社長の案内で、首藤勝次竹田市長、市役所職員、アーティストや若者達など、「TAKETA ART CULTURE 2014」に取り組む地元の皆さんと交流しながら、城下町竹田の「文化・芸術」と「まち歩き」の二つを同時に楽しむことができた。地元竹田市の皆さんをはじめ、視察に協力いただいた方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げたい。

最後に、参加者の皆さんとの視察中の意見交換内容も踏まえ、「TAKETA ART CULTURE 2014」のポイントについて私見も含めて整理すると以下の通り。

① 今回視察した「TAKETA ART CULTURE 2014」の内容はとても充実していた。各会場で楽しむ「アート・クラフト」はそれぞれ質が高く魅力的で、また、伝統的な竹工芸からカブトづくりまで多様性に富む。そこに、地元の食材を活かした食の魅力、城下町竹田を歩く楽しさが加わる。「アート・クラフト」、「食」、「まち歩き」をテーマにした複合型コンテンツ[17]として高く評価できよう。

② 地域づくりの仕組みとしても興味深い点が多い。竹田市によると、「竹田で渦巻く地域内外の人間の磁場ともいうべきものを活かし、「企画のかけ算」が機能することで集積の相乗効果を高めていく」とのこと。また、視察中の意見交換の中では、「地元の次の世代が集まって若者達と具体的な取り組みを熱心に企画している」、「都会の若者達が地域との関わりを求め竹田に集まり、自己実現を図ろうとしているのではないか」といった意見があった。竹田では、世代を超えて地域内外の多様な人材が集まり地域づくりを進めていく仕組み、いいかえれば、持続可能性の高い地域づくりの仕組みが出来つつあるのではなかろうか。

③ 「TAKETA ART CULTURE 2014」は今年で4回目の開催となる。アートに関心の高い人々や城下町竹田の根強いファンを中心に認知度が高まり、参加者は年々増加し、リピーターも増えているものと推測される。「TAKETA ART CULTURE 2014」のパンフレットや公式HPのデザイン性も非常に高い。また、地元の新聞・テレビの報道に加え、参加アーティストや支援者、来訪者などがネット上で「TAKETA ART CULTURE 2014」の魅力について積極的な情報発信を行っている。ここに、大分県では、今秋開催の「国東半島芸術祭」、来年春の大分県立美術館開館など、県内各地のアートの魅力が加わっていく。大分県内全域でアートの連携・集積が進んでいく中、「TAKETA ART CULTURE」の注目度は今後も高まっていくものといえよう。

以上

工芸作家の移住が地元に活力を生む

芸術家と料理人など異種クリエイターの交流も進む

竹田市は都会の大学と提携し、大学のない竹田で、大学生が住みながら社会を学ぶ

[17]「歩く」、「見る」、「買う」、「つくる」、「食べる」、「交流する」等、人それぞれの楽しみ方が可能なコンテンツともいえる。

【参考資料1】視察参加者名簿

| 氏　　名 | 会社名 |
|---|---|
| 尾野　文俊 | 鬼塚電気工事㈱ |
| 武田　　浩 | ㈱日本政策投資銀行大分事務所 |
| 板井　良助 | ㈲但馬屋老舗・(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団 |
| 大山　直美 | 大分エコセンター㈱ |
| 小倉　義人 | ㈱大分銀行 |
| 柴田　智彦 | 清水建設㈱ |
| 三浦　宏樹 | (公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団 |
| 浅野　優美 | 大分エコセンター㈱ |
| 菅野　元衛 | 清水建設㈱ |
| 佐野　真紀子 | ㈱日本政策投資銀行大分事務所 |
| 宮内　裕和 | 府内産業㈱ |
| 三浦　祐輔 | 大分経済同友会 |

【参考資料2】視察スケジュール

開催日：2014 年 9 月 27 日（土）

| 日　　程 | 視察スケジュール |
|---|---|
| 9:50 | 大分駅南口（上野の森口）集合 |
| 10:00 | 大分駅発（マイクロバス） |
| 11:00-12:10 | 竹田市総合学院（ＴＳＧ）視察<br>（首藤勝次竹田市長、竹田市関係者との打合せを含む） |
| 12:30-14:00 | 参加者による意見交換会①（会場：「カフェ・グランパ」） |
| 14:00-18:00 | 竹田アートカルチャーの各会場を徒歩で見学 |
| 18:00-21:00 | 参加者による意見交換会②（会場：「シャンピ」他） |
| 21:00 | 竹田市発 |
| 22:00 | 大分駅着、解散 |